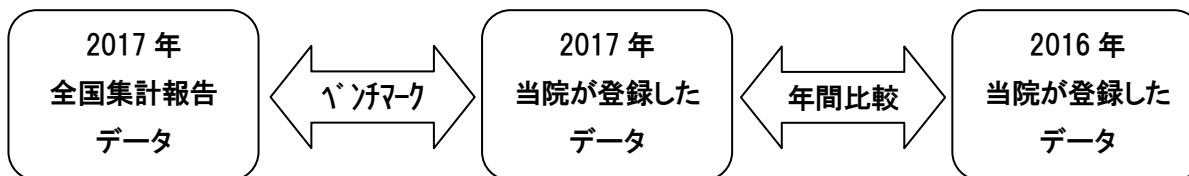


## 当院の院内がん登録について(2017年)

下記のデータは、国立がんセンターが集計した「2016年全国集計報告書」を元に、がん診療連携拠点病院の「全国の平均値」と「神奈川県の前平均値」を、当院の「2016年と2017年の当院のデータ」と比較したものです。



### 当院の特徴

- ・高齢のがん患者さんが多い。
- ・当院で診断された患者の約85%が、当院で治療を行っている。
- ・「膀胱」の件数が多い。

### 【 院内がん登録とは 】

病院で診断されたり、治療されたりした患者さんのがんについての情報を、診療科を問わず病院全体で集め、がん診療がどのように行われているかを登録しています。

この情報は「院内がん登録の実施に係わる指針(厚労省告示第470号)」に則り、国立がんセンターに情報提供することで、国のがん対策に協力しています。

当院では、国が定める「院内がん登録標準登録様式」に準拠して登録を行っており、部位・組織分類には「国際疾病分類-腫瘍学第3版」を、病期(ステージ)分類は「UICC TNM 悪性腫瘍の分類 第7版」を使用しています。

がん登録を行う病院が同じ項目を登録することにより、他病院と比較することが可能となり、当院の状況や特徴が解るようになります。

### 【 個人情報の取り扱いについて 】

収集された院内がん登録情報(個人情報)は、個人情報保護法に基づき適正に取り扱い、保護、管理しています。

以上のことについて、ご同意いただけない場合は、その旨を総合案内(診療情報管理科)までお申し出ください。お申し出のない場合は、ご同意いただいたものとして取り扱わせていただきます。

なお、これらのお申し出は、後からいつでも撤回、変更することができます。

## 1. 登録件数・部位別登録割合

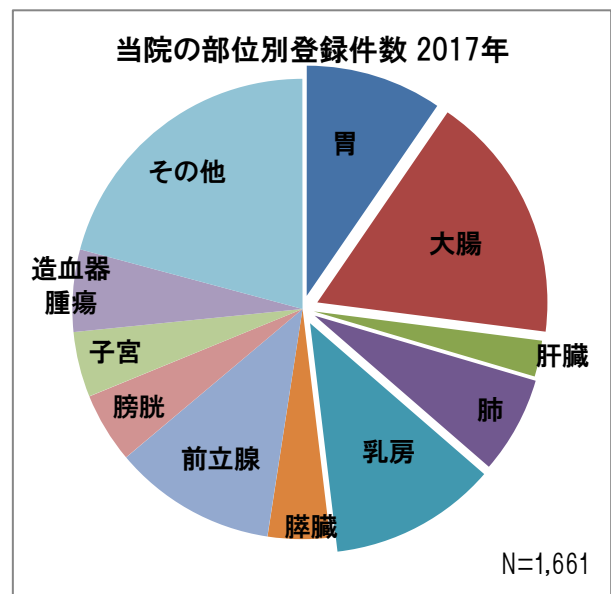
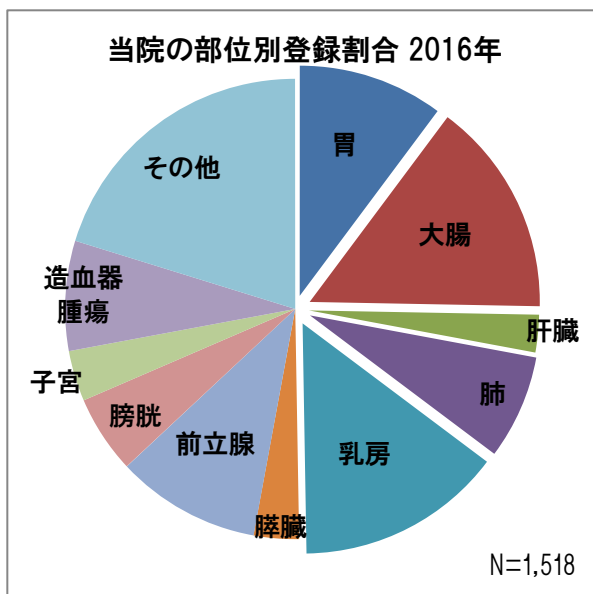
神奈川県内の院内がん登録数は東京・大阪に次いで全国3位となっています。がん診療連携拠点病院での1施設当たりの全国の登録件数の中央値(2017年)は1,493件となっています。

	2017年報告(拠点病院のみ)		当院の登録件数		
	全国平均	県平均	2015年	2016年	2017年
登録件数	1,676件	2,193件	1,360件	1,518件	1,661件

部位別の2017年当院の登録件数と県平均値と全国平均値(全提出病院)の比較では、

- 「多発性骨髄腫」「前立腺」の件数は、全国平均値と県平均値より多い。
- 「膀胱」の件数は、県平均値より多い。

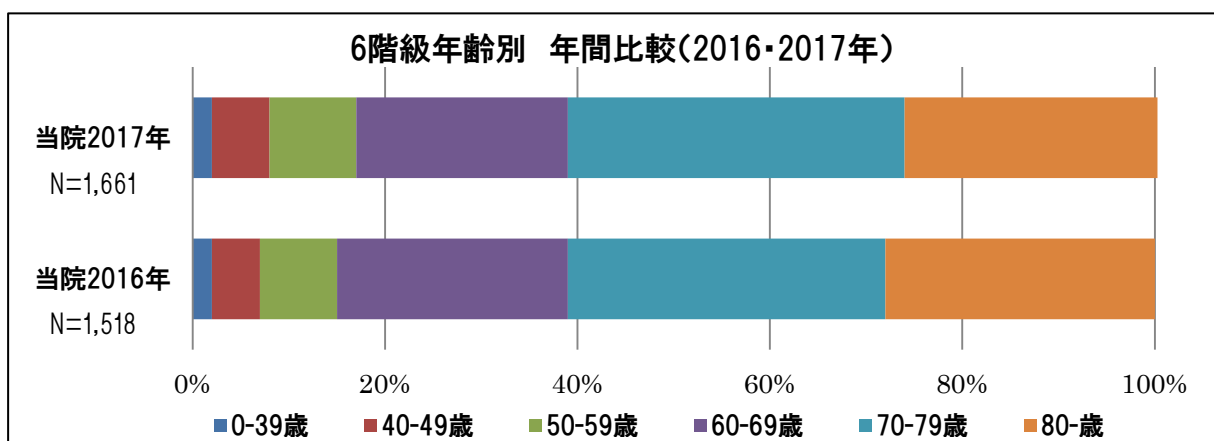
2017年の当院で多い部位の割合順は、「大腸」が17.5%、「乳房」が11.7%、「前立腺」11.4%となっています。



## 2. 年齢の割合

当院の診断症例の平均年齢は、2017年では71.0歳、2016年では70.9歳です。

2017年の全国の平均年齢では69.8歳となっており、当院は、全国平均よりも高齢ながん患者を診ていることになります。

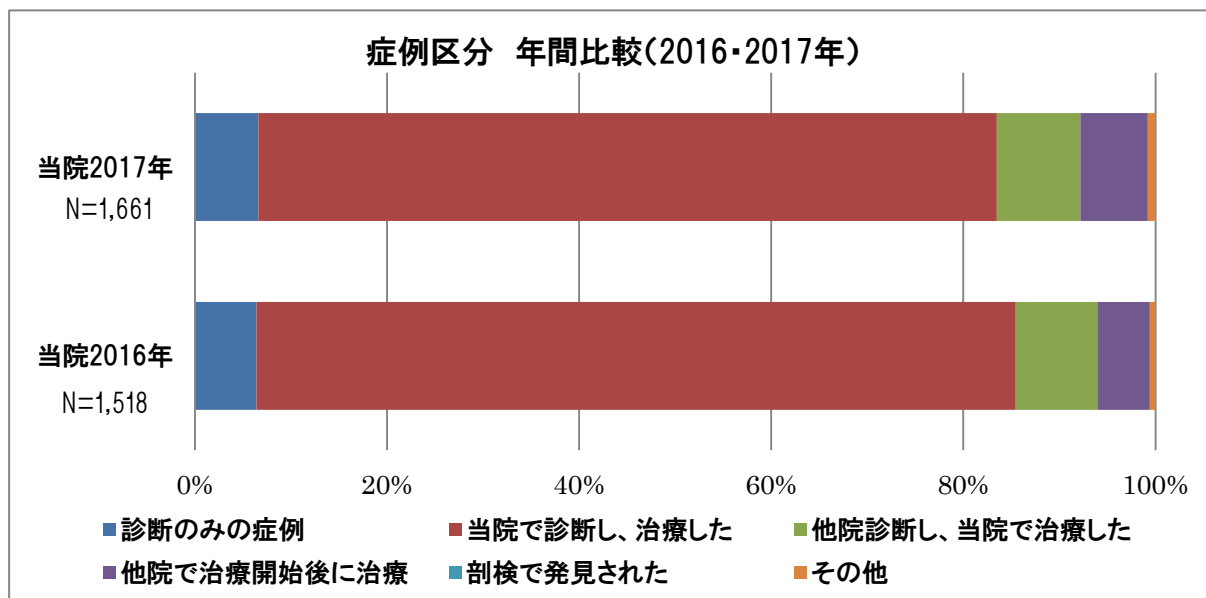


### 3. 症例区分

症例区分は、がん診療連携拠点病院が、がん診断から再発治療までの一連の治療の流れで、主にどのような役割を担っているかを推察するための項目です。

この条件は「当院で診断し、治療した」と「他院で診断し、当院で治療した」を合わせた患者数に相当します。2つの条件を合わせた割合は、2017年の全国中央値では80.9%となり、当院では、2016年は87.6%、2017年は85.6%と高い値になっています。

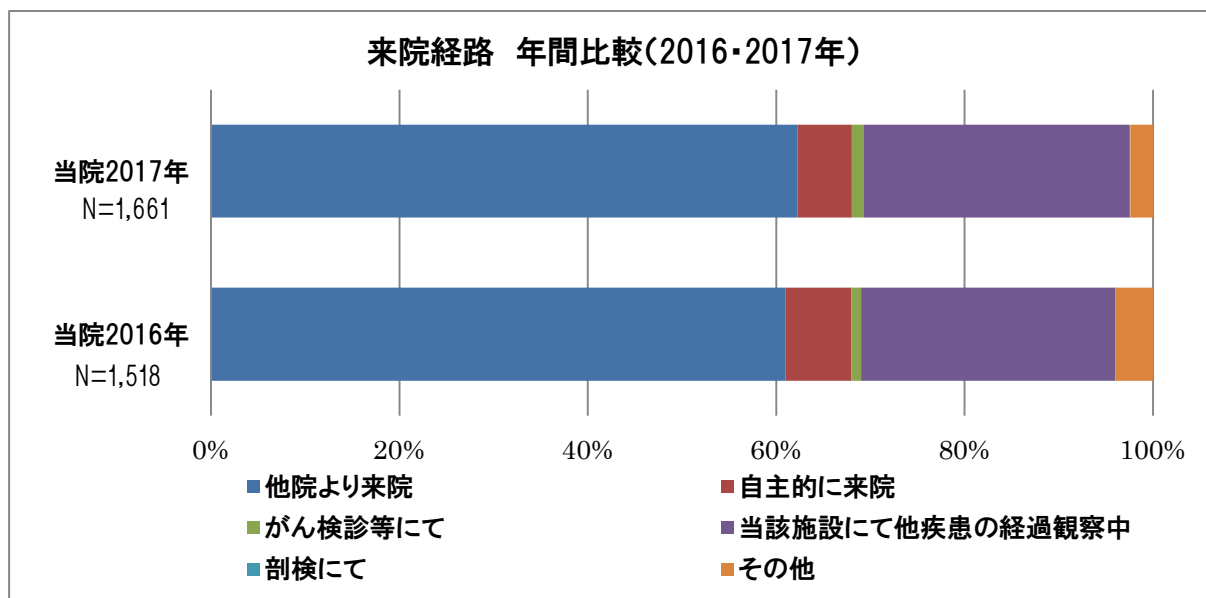
したがって、がんと診断されて当院に来院された患者の約85%の方に初回治療を提供しています。



### 4. 来院経路

来院経路は患者がどのような経路を経て当院を受診されたかを把握し、地域においてどのような機能を担っているかを、「他の医療機関との関係」を推察するための項目です。

2017年の全国集計では、「他院からの紹介」が中央値63.4%で半数の施設は55.6%~72.6%の間で分布しており、当院では「他院より来院」が2016年は61.1%、2017年は62.3%となっています。



## 5. 発見経緯

発見経緯は、来院経路とは異なり、当該腫瘍が診断される発端となった状況を把握する項目です。何らかの症状があり、病院を受診して診断された場合には「その他・不明」に含まれます。

「がん検診等」の割合は、症状受診前に発見された患者の指標の一つとなります。

「がん検診等」で発見された割合は、2017年の全国平均値 14.7%、中央値 14.5%で半数の施設は 11.4%～17.7%の範囲に分布しており、当院では2016年は 11.9%、2017年は 11.8%となっています。

登録年	がん検診等		他疾患の経過観察中		剖検で発見		その他・不明		総計	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017
胃	8.9%	9.2%	20.4%	12.4%	0.0%	0.0%	7.1%	6.8%	10.2%	9.6%
大腸	15.0%	20.9%	21.1%	18.3%	0.0%	0.0%	15.1%	15.7%	15.1%	17.5%
肝臓	0.6%	0.0%	6.2%	3.8%	0.0%	0.0%	1.7%	1.9%	2.6%	2.5%
肺	7.2%	6.1%	12.8%	7.9%	0.0%	100.0%	5.9%	5.7%	7.3%	6.8%
乳房	30.6%	20.4%	14.3%	7.2%	0.0%	0.0%	14.0%	14.0%	14.5%	11.7%
前立腺	22.8%	21.9%	16.2%	16.5%	0.0%	0.0%	6.0%	3.6%	10.1%	11.4%
子宮	5.6%	8.2%	4.0%	3.4%	0.0%	0.0%	3.6%	4.8%	3.6%	4.6%
その他	9.4%	13.3%	55.1%	30.4%	0.0%	0.0%	40.8%	47.5%	36.6%	35.9%
<b>全部位</b>	<b>11.9%</b>	<b>11.8%</b>	<b>41.6%</b>	<b>44.1%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.1%</b>	<b>46.5%</b>	<b>44.0%</b>		

## 6. 2017年の主要部位のステージ分類と治療方法の割合

下記の集計対象は、当院にて初回の治療(経過観察を含む)を実施した症例のみとなります。

ステージ(病期)とは、「がん」がどれくらい進行しているのかを表します。患者の予後に影響を与える重要な要因で、最も早期のステージ0期(種類によってはない部位もある)からⅠ期→Ⅱ期→Ⅲ期→Ⅳ期となり、Ⅳ期が最も進行している状態となります。

### ・「治療前ステージ」

…治療前検査の診断で分類されたもの

### ・「術後病理学的ステージ」

…手術後の病理検査の情報を踏まえて分類されたもの

※「がん組織を採取しない治療」や「術前治療後(術前化学療法など)を行った手術」などを含まないものは「その他」に分類

また、治療方法は当院で最初に行った治療を下記のとおり分類します。

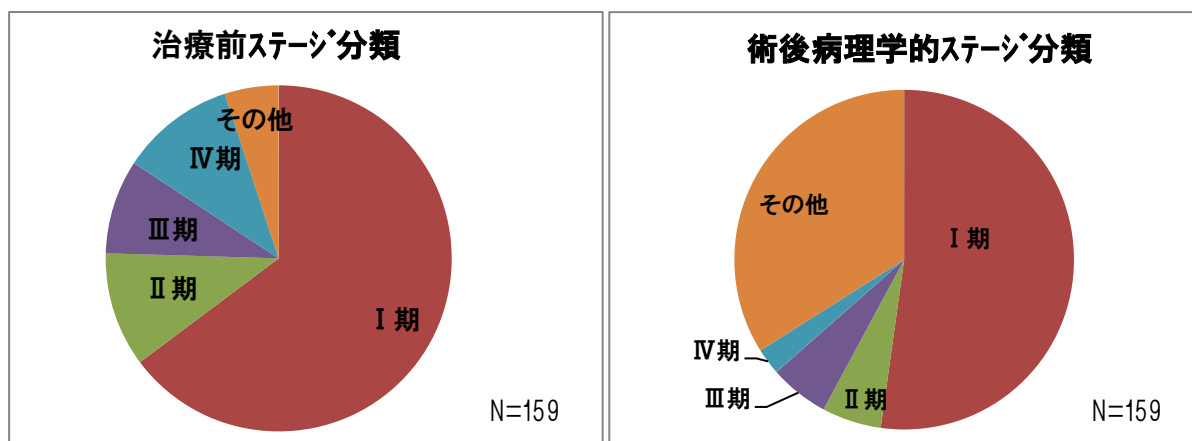
#### ①腫瘍の縮小・消失を目的とした治療

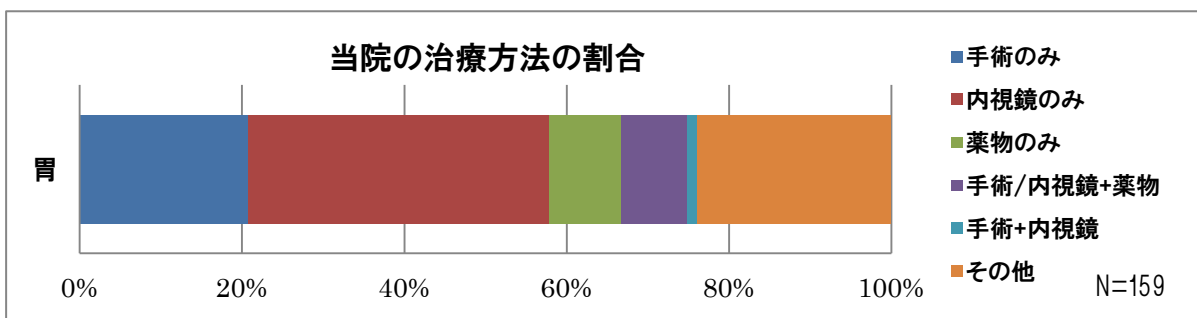
- ・「手術」…開腹手術や腹腔鏡や胸腔鏡など鏡視下手術
- ・「内視鏡」…胃カメラや大腸カメラで切除した治療
- ・「薬物」…化学療法・内分泌療法・免疫療法など薬剤を投与した治療
- ・「放射線」…放射線治療(リニアック)など
- ・「その他の治療」…レーザー治療や動脈塞栓術などの治療
- ・「他の組み合わせ」…「その他の治療」のみや「放射線」+「その他の治療」など

#### ②腫瘍の縮小・消失を目的とした以外の治療

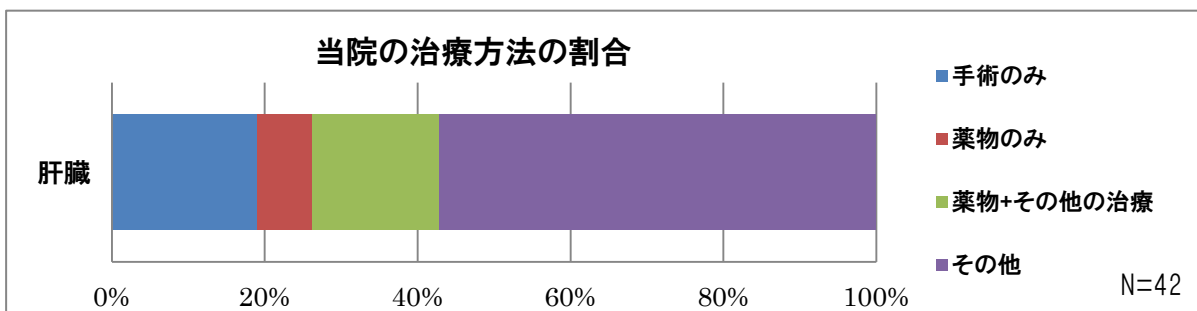
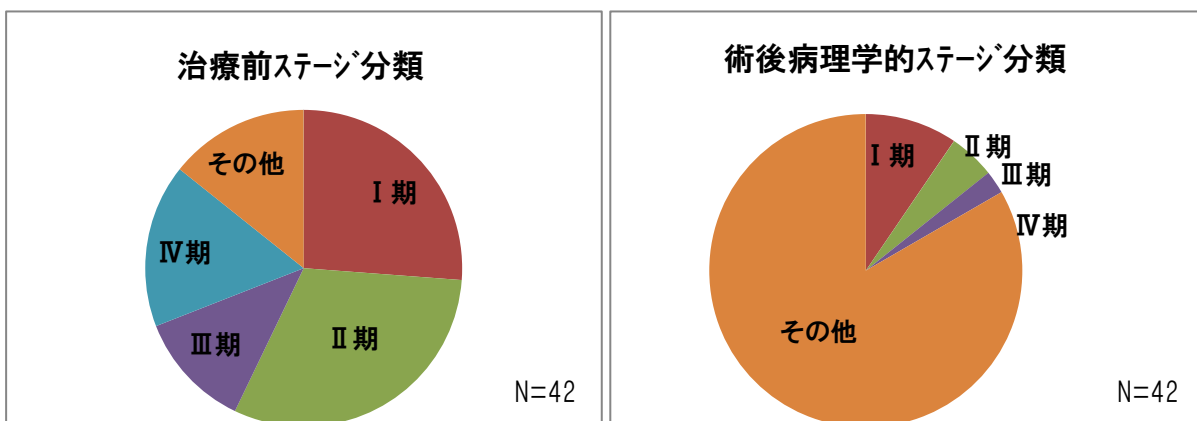
- ・「その他」…症状緩和を目的とした治療や経過観察など

### ① 胃

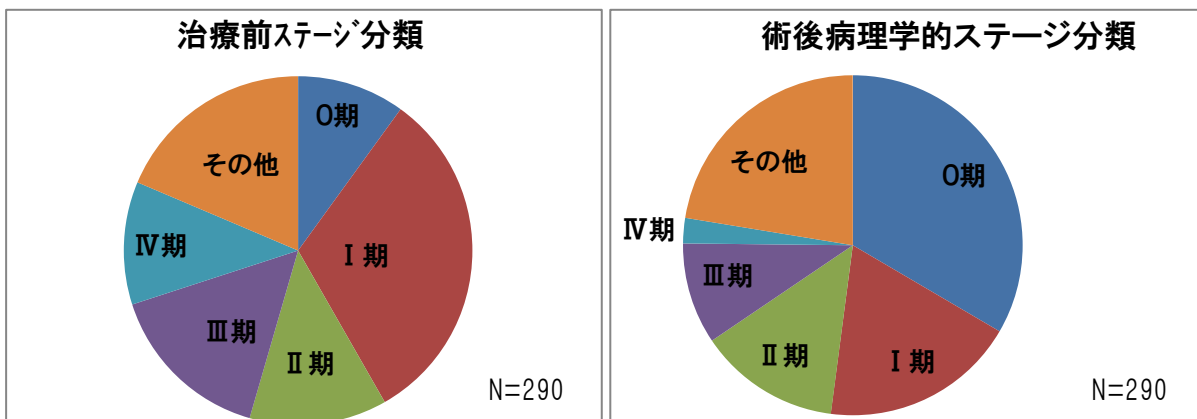


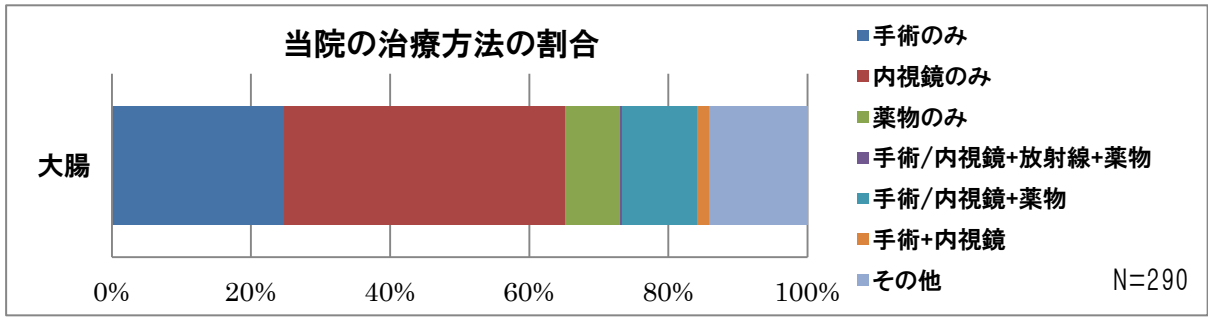


## ② 肝臓

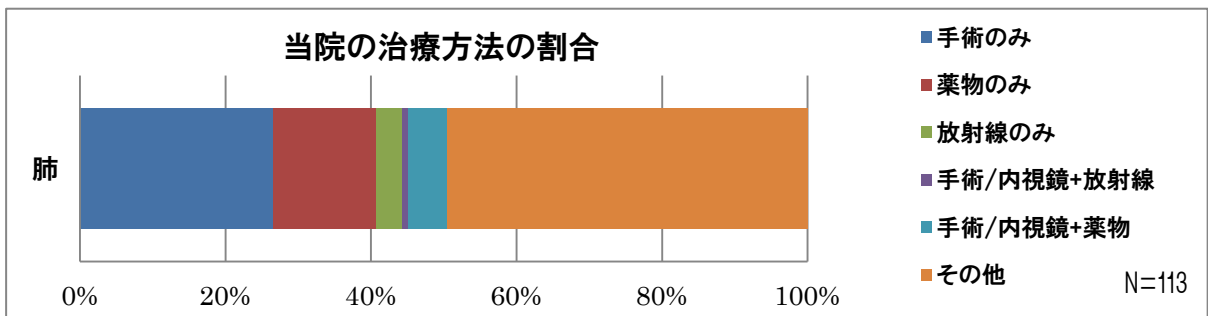
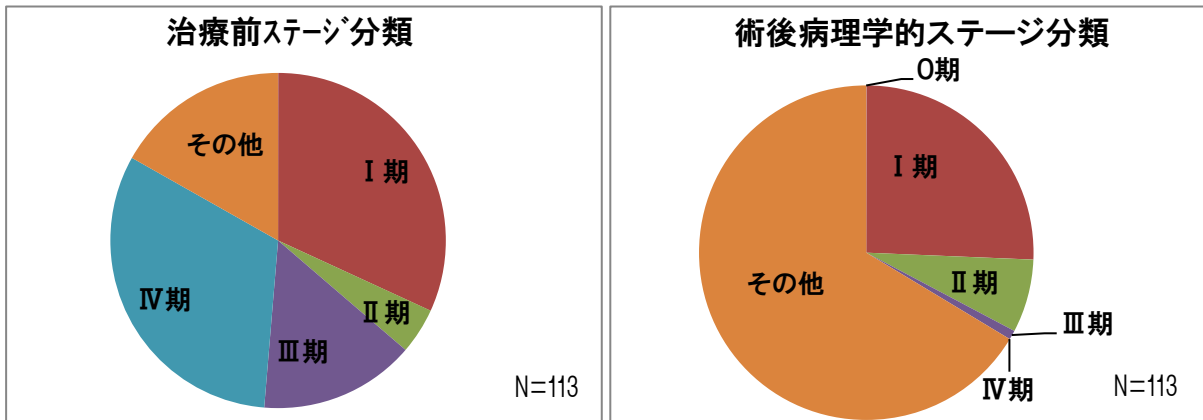


## ③ 大腸

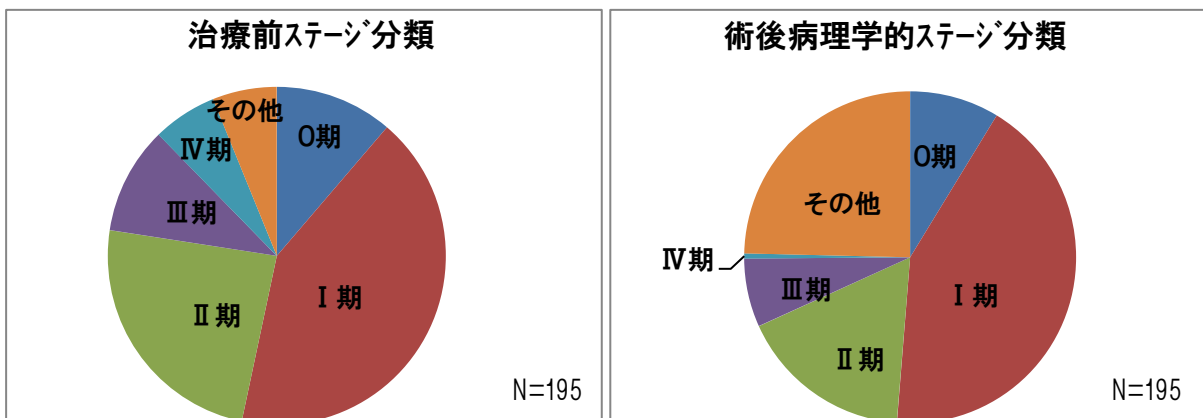


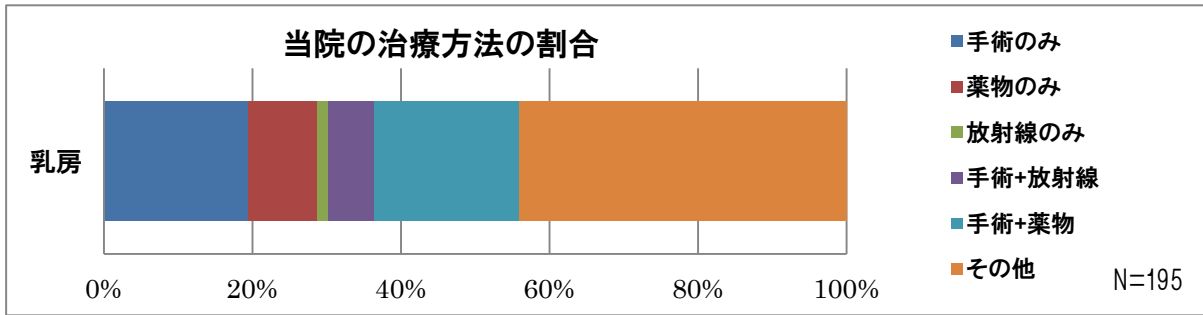


#### ④ 肺

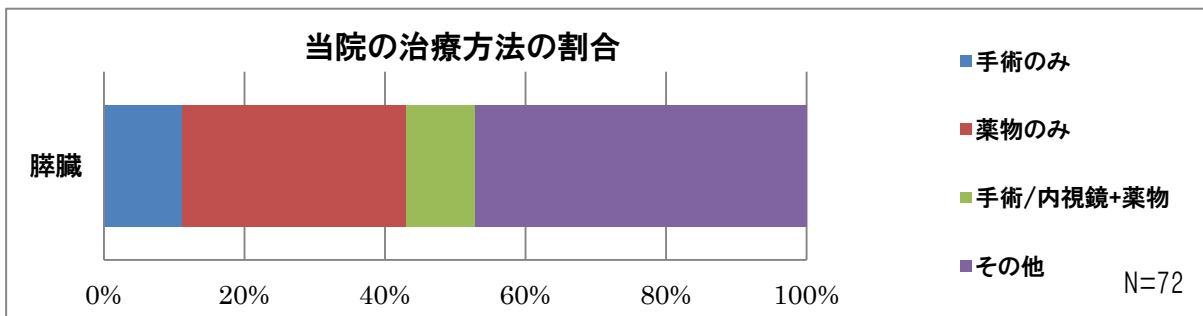
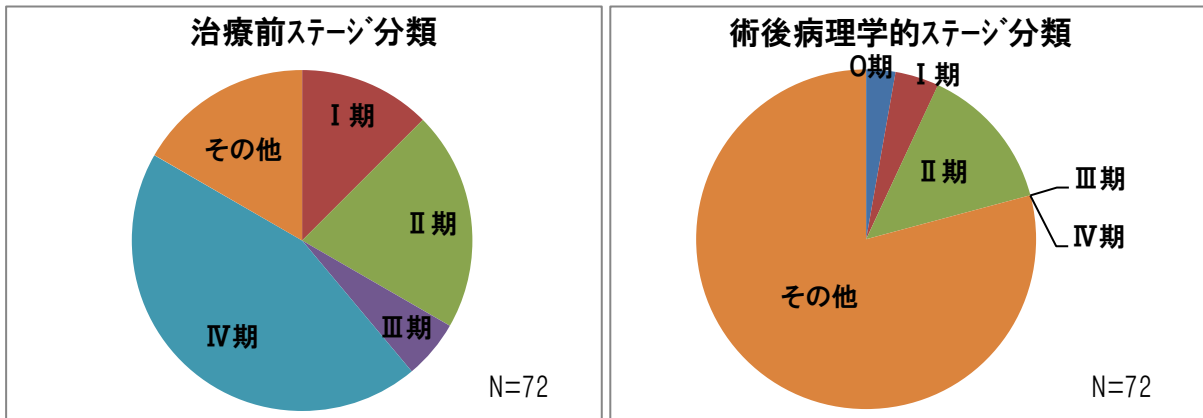


#### ⑤ 乳房

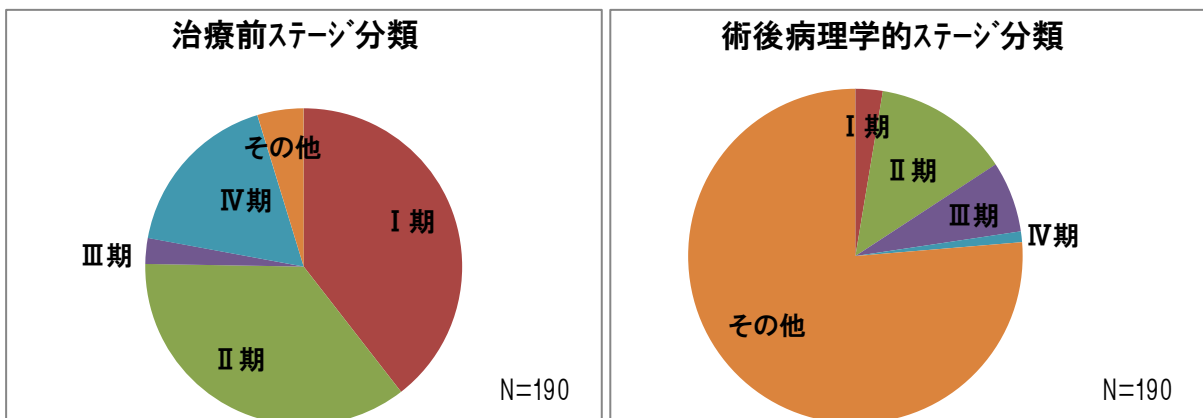




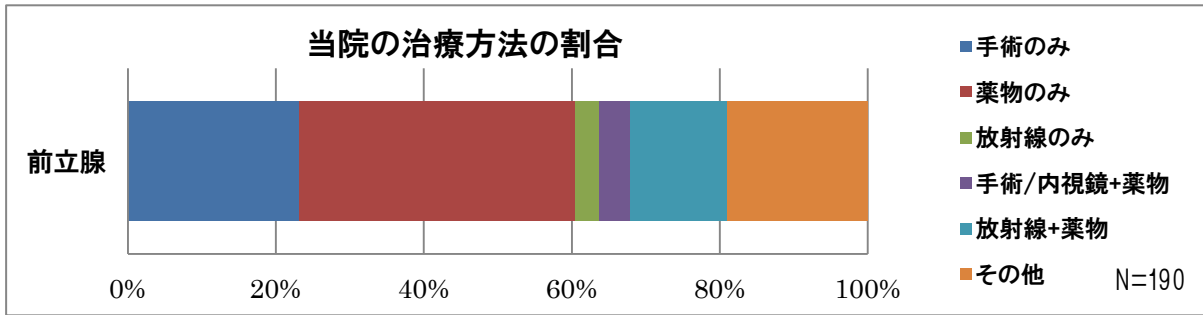
## ⑥ 膵臓



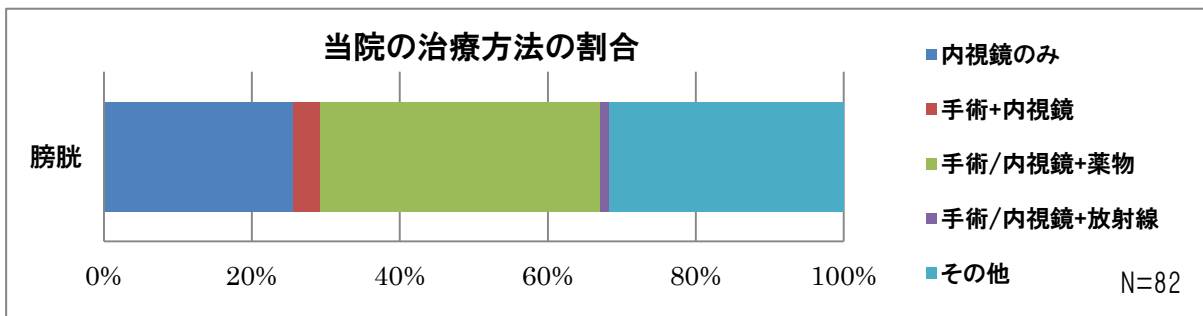
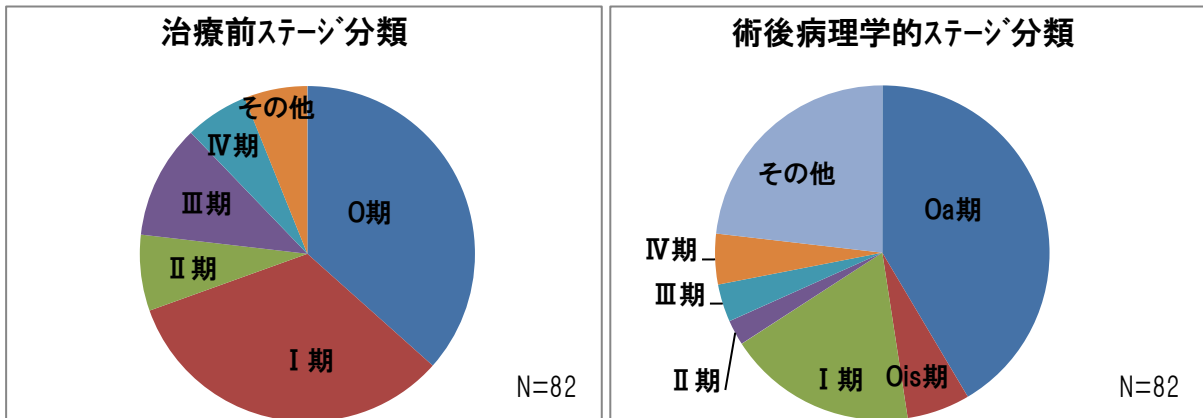
## ⑦ 前立腺



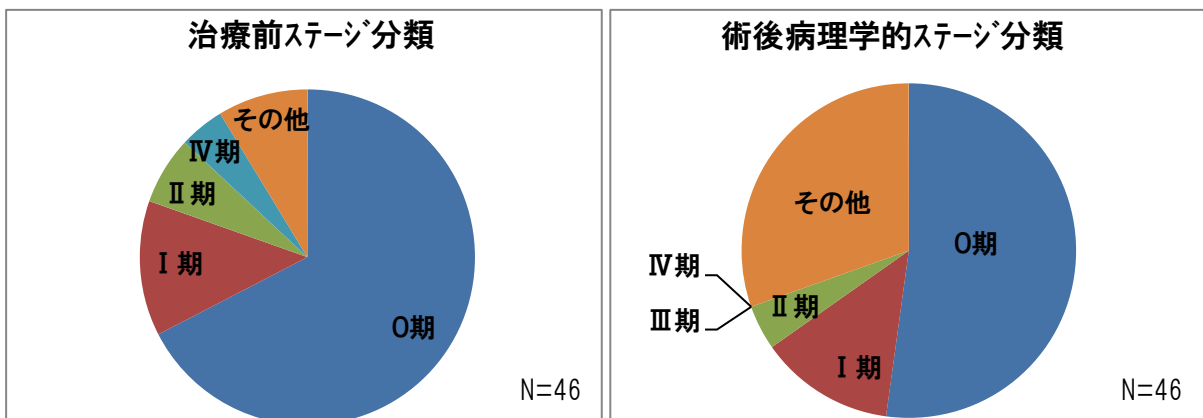


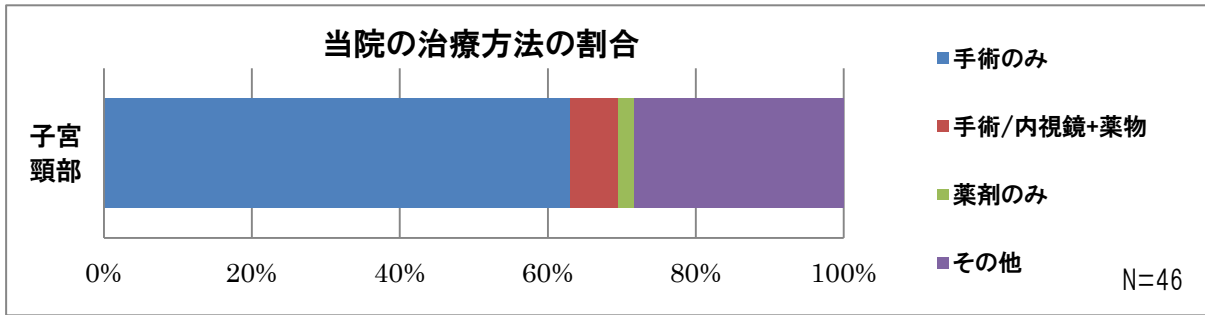


## ⑦ 膀胱

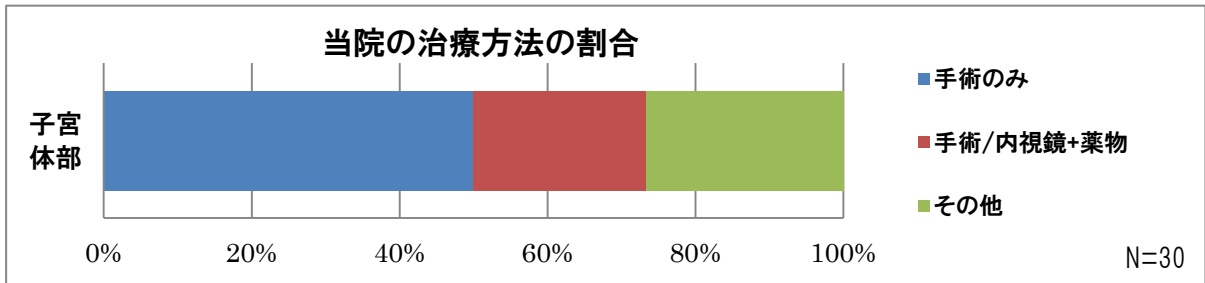
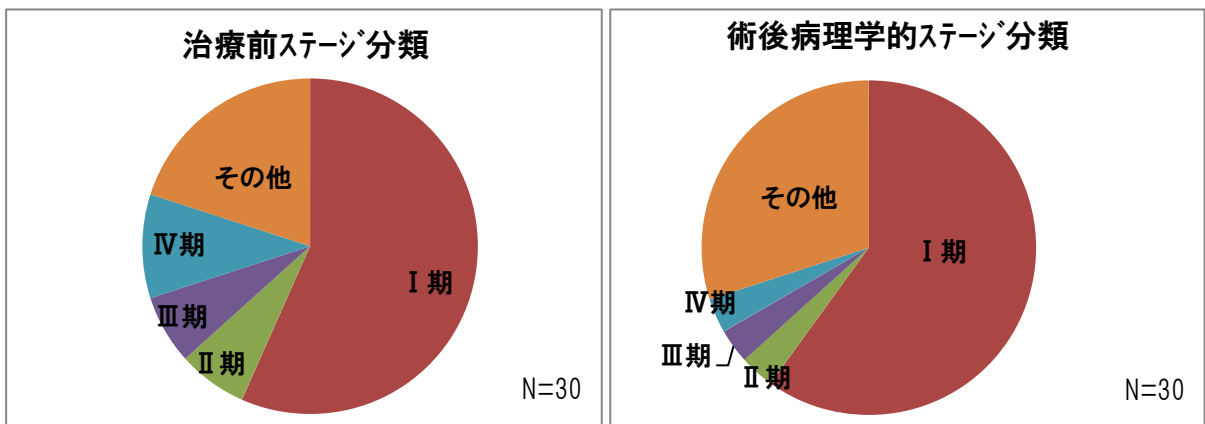


## ⑧ 子宮頸部

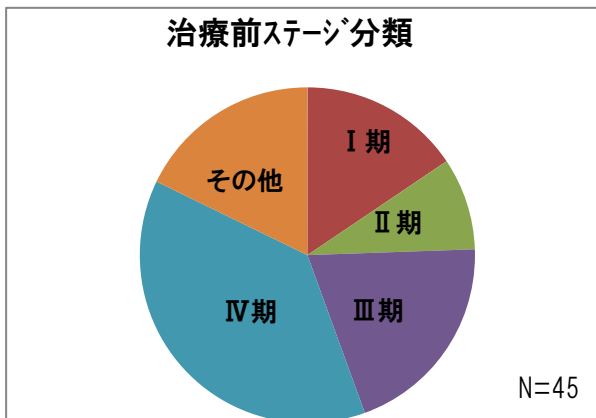


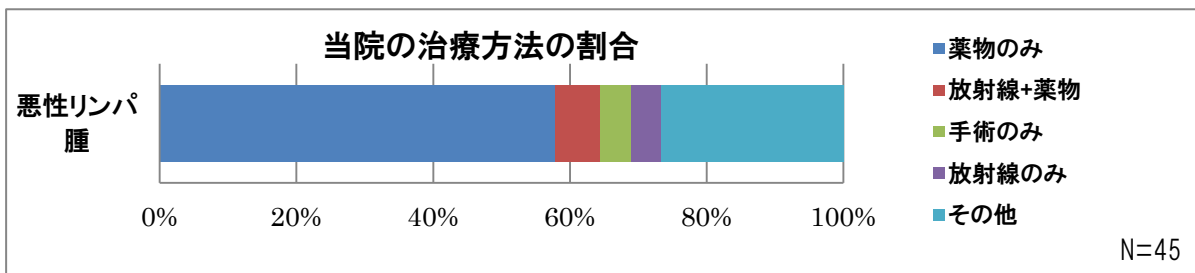


## ⑧ 子宮体部



## ⑧ 悪性リンパ腫





⑨ 白血病

